

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第3回 西東京市下水道審議会
開催日時	令和7年10月15日（水） 午後2時00分から午後3時38分まで
開催場所	保谷東分庁舎地下1階会議室1
出席者	<p>【委員】岩崎会長、山岸副会長、入山委員、樋渡委員、小谷野委員、柴田委員、定留委員、横井委員、加藤委員</p> <p>【事務局】下田都市基盤部長、長塚下水道課長、林課長補佐兼業務係長、日下部工務係長、乙幡施設管理係長</p> <p>【欠席者】0名 【傍聴人】0人 【計画策定支援事業者】1名</p>
議題	<p>1 開会</p> <p>2 協議事項 西東京市下水道プランの見直しについて（プランの改定に向けた方向性の検討）</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>
会議資料の名称	資料7 西東京市下水道プラン改定に向けた方向性の検討
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>< 1 開会 ></p> <p>（事務局より開会のあいさつ）</p> <p>○事務局：西東京市下水道プラン（素案）の計画策定事業者の同席を了承願う。</p> <p>< 2 協議事項 ></p> <p>・ 西東京市下水道プランの見直しについて（プランの改定に向けた方向性の検討）</p> <p>○会 長：議題1、西東京市下水道プランの見直しについて、事務局より説明願う。</p> <p>○事務局：「西東京市下水道プラン中間進捗 各種施策実施状況」を40分程度で説明し、質問を受けたいと考えている。 （資料7に沿って、「西東京市下水道プラン改定に向けた方向性の検討」について説明）</p> <p>○会 長：ここまでの事務局からの説明について、何か意見、質問等あるか。</p> <p>○委 員：今回の資料というのは、その方向性の検討を行うために我々委員に向けた資料なのか、それともここに記載されていることをそのまま下水道プランに掲載していく予定なのかどちらなのか。</p> <p>○事務局：資料の6ページ以降については、下水道プランの第4章の部分にこの形態で掲載していきたいと考えている。</p>	

○委員：読んだ感想からすると、書きぶりが難しいという印象を受ける。専門的な用語が多くて、これを読んだ一般の市民の方々が理解できるのか疑問に思う。巻末に用語集は入れると思うが、経営指標についても、指標値が高い方がいいのか、低い方がいいのかも分かりやすく明記する工夫も必要だと思う。

○事務局：下水道に関する専門的な用語が多く入ってきているので、難しい用語には、注釈をつけ、用語集の中で用語解説していきたいと考えている。また、この資料では、これまでの取組みから今後の展開までを並べているが、取組結果と今後の展開を分けて記載した方が分かりやすいところもあるかもしれないので、その辺りの構成の変更をしたいと思う。

○委員：資料19ページの表の下水道使用料の表示単位は円ではなく千円ではないか。

○事務局：委員のおっしゃるとおり単位は千円になるため、訂正する。ホームページに掲載する資料については、訂正後のものを掲載させていただく。

○委員：改築費用に1キロメートル当たり10億円かかる自治体もあると聞いている。資料の9ページでは、改築については延長2km、修繕については23kmの工事が必要と記載されており、今後、莫大な経費が見込まれる中でどのように費用を抑えていくかが喫緊の課題と感じている。
また、マンホールの点検について、蓋を支える部分の点検も行っているのか気になる場所である。マンホールは多数あり、点検を行えばその分、補修費用は増加すると思われるので、そういったことを視野に入れ点検を検討したほうが良いと思う。
さらに近年は、1時間に100mmの降雨が発生する線状降水帯が頻繁に発生しており、その対策も想定していく必要があると思っている。

○委員：9月8日と11日の集中豪雨についての被害状況と資料の12・13ページに記載されている対策の中に今回の被害地域が含まれているのか情報として提供してほしい。

○事務局：基本的に職員の巡回や市民の方の通報により浸水状況を確認している。令和5年度は15件、令和6年度は14件である。地域としては、下保谷の白子川周辺の地域、泉町の新川地域の川に近いところや短時間の集中豪雨で、雨水を排水するための排水施設の能力を超えてしまうようなところであり、そのような場所が市内に点在している状況である。今年の9月11日の集中豪雨では、都内各地で、かなりの浸水の被害が確認されていて、市内でも長時間強い雨が続いたことにより、これまで浸水していたところは同様に浸水しており、それ以外の地域でも新たに浸水が確認され、今回は約30ヶ所で確認されていることから例年より増加している。
今後の対策について、抜本的な対策は先ほど浸水対策の中でも説明したが、雨水を放流する先となる川の下流側の河川の改修、それを補完する雨水幹線の整備が不可欠になる。しかし、その部分の事業主体が東京都になるため、

東京都に対し早期完成を要望していくが、完成までにはかなり時間がかかるものと想定される。そのような状況を踏まえると市としては、浸水地域の被害軽減対策として、雨水浸透貯留施設の設置も実施していかなければならない。今回新たに浸水が確認された場所についても浸水を軽減できるような対策を検討していく。

○委員：白子川流域の中で、東京都が整備する雨水幹線は、白子川一号幹線を指しているものと思われるが、今の話を踏まえると西東京市が整備する白子川上流六号雨水幹線の工事のタイミングは、東京都の整備が完了した後になるのか。

○事務局：基本的には下流側からの整備となるので、東京都の工事完了後となるが、完了していなくてもある程度、東京都の設計が進み、白子川一号幹線に接続する目処が立つタイミングになれば、市の工事も可能となる。いずれにしても下流側の整備が完了しなければ、放流することができないので、東京都と協議を重ね整備状況を踏まえて検討していきたいと思う。

○委員：資料19ページでは、経費回収率100%以上となっており、現在は安定的な運営に見えるものの、今後の老朽化対策の費用が増加することを考えると非常に厳しい状況であることを文章で触れたほうが良いのではないかと。事業の実施に向けた補助金交付を国や東京都へ強く要望していく旨も盛り込んでいただければ、市の事業実施に向けた動きも市民の方に伝わっていくのではないと思う。
また、下水道BCPというのは、ホームページ等で公表しているのか。BCPを見直して強化していくと記載されているが、具体的にどのように行っていくのか。他にも下水道に限らず、市BCP等もあるのか。

○事務局：下水道BCPは発災の際に内部での行動対応を示したもののなので、公表していない。現在は、地震編のみとなっているが、今年1月に発生した大規模陥没事故を踏まえると、そのような災害級の事故にも対応できるよう改正が必要であると感じている。
なお、BCPについては、下水道以外にも市全体のBCPも策定されている。

○委員：資料7ページ中段の取組結果（令和2年度から6年度）の表について、簡易テレビカメラ調査と記載されているが、通常、汚水を含む下水道管の場合、硫化水素の問題が挙げられる中で、どのように実施したのか。

○事務局：自走式車型のカメラを使用して調査を行った。

○委員：その自走式のカメラを使用し調査した結果が、資料9ページの取組結果で示されている改修工事や修繕工事の必要延長となっているのか。

○事務局：資料7ページの簡易テレビカメラ調査は、雨天時浸入水対策として行った調査であり、資料9ページについては、ストックマネジメント計画に基づいて実施した調査となっている。この調査については、大口径の管きよも含まれるので、目視で行ったものやカメラで実施したものもある。

○委員：資料6・7ページの取組結果について、数値結果の記載があり分かりやすいが、この間の取組が計画通りに進んでいたのかどうか、評価に関する部分が記載されていると更にわかりやすいと感じた。実際にストックマネジメント計画に基づく管きよの調査の56kmは、予定通りの延長なのか知りたいところである。

○事務局：調査延長の56kmは、予定通りの延長ではある。現行のプランでは、数値目標が設定されていないため、取組の評価についてどのように示していくか検討してきたが、今回の中間見直しに当たる改定では、実施した結果を数値として示すことができるものを極力出していく方向で考えた。10年毎の大きな見直しは、5年後となるので、その中で、わかりやすい指標を含め目標設定などの明記の方法について、検討していきたいと考えている。

○委員：先ほど他の委員の方からも意見があったように、施策には定評的な目標があって、それに対する達成状況がわかると良いと思うが、今回は、中間の見直しということで理解をした。目標値をしっかりと掲げている自治体も多数あるので、是非、次の見直しの時は、市民の方に説明するという観点からも目標値を取り入れてほしい。

また、全体を通して専門用語が多く含まれている印象を受けるので、用語集や位置図等を活用し、わかりやすくしたほうが良いと感じた。

他にも、「取組を踏まえた新たな課題」と「解決に向けた展開」で同じ言葉が繰り返されているものが見受けられるので、少し工夫したほうが良いと思う。計画冊子とは別に概要版を作成し、誰もが見たくなるようなわかりやすい概要版の作成をする等の工夫をするのも良いと思う。

先程、資料の説明の際に言っていた、施策と目標の表示方法で悩んでいる点について、もう一度説明を願う。

○事務局：今回の資料については、この5年間の計画期間中の各施策の取組内容・結果を明らかにしてから次の展開に進んだ方が、議論しやすいといったところもあるので、あえて現行計画の体系ベースで作成している。

しかし現状に照らし合わせると、これらの取組が、次の5年間も、現行の体系で展開できるのかと問われると難しい部分もあるため、整理した方がいいだろうと感じている。例を挙げると、基本方針の一番上の「施設再生による持続性の確保」になるが、日常的な維持管理の部分とストックマネジメント計画に基づく計画的な維持管理が混在してしまう部分があるので、施策の組替えが必要であるという点、また、地震対策以外にも大規模な陥没事故対策も地震対策の枠組みで表現してよいかという点が挙げられる。

○委員：地震対策の施策の枠組みに大規模な道路陥没事故対策を文脈に含めることは、違和感なく読むことができた。埼玉県の場合は、災害級に当たるものであり、老朽化対策の域を超えていると思うので、観点としては合っていると感じる。

< 3 その他 >

○会長：その他について、事務局より説明願う。

○事務局：事前に配布した第2回会議録の内容に修正点がなければ、承認をいただきたい。

○会長：第2回下水道審議会の会議録（案）について、これでよろしいか。

○委員：「債権」とあるが、「債券」という意味で質問している。

○委員：「令和5年度における流動比率が200%を超えている原因は何か」という質問に対する答えを後日回答するという話があったと思うが。

○事務局：前回の審議会は休憩を挟み前半・後半の2部構成で開催したが、前半でいただいた質問は、後半で説明する内容だったため、後ほど回答する旨説明し、後半部分で、回答させていただいたと認識している。誤字は訂正し、記載表現に分かりづらい部分があったので、誤解を招かぬよう補足を入れる。

○会長：他はいかがか。
修正した議事録は会長一任ということでよろしいか。

（「はい」の声あり）

○会長：事務局よりほかにあるか。

○事務局：次回の審議会は11月21日（金）14時からを予定している。

< 4 閉会 >

○会長：本日の予定の審議は全て終了し、第3回の下水道審議会は以上とする。